

「あなたがいた端」

—初稿—

2026/1/23
雨森 れに

〈人物表〉

両角 もろすみ
 紬 つむぎ

(16) 高校生

藤森 ふじもり
 大樹 だいぎ

(28) 若く見えるサラリーマン

1. 池袋駅・構内(昼)

通勤ラッシュ過ぎ。ピーク時よりは人が少ない。
制服姿の両角紬(16)、改札に入る。

2. 山手線・内回り・車内(昼)

電車の音。

目白過ぎ。人がまばらに立っている。

紬、シート中央に座っている。

車内アナウンスが高田馬場を告げる。

人が出入りし、最後に藤森大樹(28)が乗る。

大樹、ドア横の仕切りに背を預ける。

紬、スマホをいじるフリをして大樹を盗み見る。

大樹、車内表示に流れる広告動画を眺めている。

大樹の鞆には小さな動物チャーム。

紬、それを見て微笑む。

紬の隣、中年男性が大きなくしゃみ。

紬、迷惑そうに隣を見る。

中年男性は鼻をすする。

紬、うんざりしながら、スマホに視線をやる。

そして、大樹をまた盗み見る。

大樹、目を閉じている。耳にはイヤホン。

車内アナウンスが新大久保を告げる。

電車が止まり、ドアが開く。

アジア系外国人数人、喋りながら入ってくる。

ちょうど大樹が見えなくなる位置で立ち止まる。

紬、スマホに視線を戻す。

車内アナウンスが新宿を告げる。

一気に人が降りる。大樹もいなくなる。

降りた数と同じだけ、人が乗ってくる。

紬、顔を上げる。ホームのどこかにいる大樹を探す

ように。

3. 学校・教室(昼)

昼休み。生徒たちは自由に過ごしている。

紬、そしらぬ顔で教室に入る。

女子1「もうお昼ですけどー」

紬「うち、朝弱いから」

紬、机に鞆を置く。

女子1、紬をじろじろと見る。

女子1「いうて、ビジュ決まってんじゃん」

紬「人間、諦めるとメイク時間が長くなるもんよ」

女子1と紬、けらけらと笑い合う。

女子1「でも単位大丈夫なん？」

紬、固まる。

女子1「ええー……」

4. 新宿（夜）

代々木〜新宿間の実景。ビル群、大ガードなど。
みな、他人に興味なさそうに、忙しく歩いている。

5. 山手線・外回り・車内（夜）

新宿駅付近。ぎゅうぎゅう詰め。

紬、狭そうにしている。

衝撃があり、急停車。

車内アナウンスで線路内立ち入りの報せ。

苛立つ者や電話をかける者、諦めたようにため息を

つく者などがある。

紬、迷惑そうに顔を歪める。

6. 新宿駅・線路（夜）

紬の乗る電車が、ホームに半分ほど到着している。

電車の目前には駅員が複数降り立ち、青いビニール

シートを広げている。

ホームからは野次馬が覗き、撮影する者もいる。

次々に駅員や警官が到着し、野次馬を散らせる。

7. 山手線・外回り・車内（夜）

紬、人の中から窓を見る。

ホームと野次馬を認める。
小さなため息。

8. 新宿駅・ホーム（夜）

紬の乗る電車、前2両を除き、ホームに到着している部分の扉が開かれる。
ぞろぞろと人が出ていく。

紬も押されるようにして出る。
降りてもうまく動けず、自販機の隣に逃げ込む。

電車から人の退出が落ち着いてくる。
紬の靴に何か当たる。

下を見ると、大樹のつけていた動物チャームがある。
しゃがんで拾う。

チャームを眺め、端に血がついていることに気づく。
喉がヒュツと鳴る。

視線は電車へ。
人がいなくなった車両。

前2両には外から目張りされている。
その先にはビニールシートを広げる駅員が並ぶ。

紬、近くにいる駅員の目を盗んで車両へ駆け込む。

9. 山手線・車内（夜）

紬、無人の車両を走る。先頭へと。
時折、接続部のドアに邪魔されながら。

後方車両にいた駅員が紬に気づいて追いかける。
紬、目張りされた車両に到着。

運転席のガラスに血がついている。
駅員 「ちよつと！ 立ち入り禁止だよ！」

駅員、紬を強く引っ張る。
駅員 「興味本位で見るもんじゃないよ。ほら、来い」

紬、無抵抗。
駅員、開扉中の車両から紬を押し出す。

紬 「あの」

10. 新宿駅・ホーム(夜)

駅員 「なに。言っとくけど見せないからね」

紬 「知り合いかもしれないなくて」

駅員、神妙な面持ちになる。

紬 「男性ですか」

駅員、少し思案してから頷く。

紬、驚愕の表情。

駅員、小声で、

駅員 「サラリーマンだけど、10代ぐらいに見えた」

紬から乾いた笑いが漏れる。

紬 「じゃあ、ちがうかも、です」

駅員 「ならいい。振り替え輸送は？」

紬、頷く。

駅員に頭を下げ、その場を離れる。

床に血で汚れたイヤホンの片割れを見つける。

拾わずに蹴とばす。イヤホンは自販機の下へ。

紬、人ごみの中に消えていく。

11. 山手線・内回り・車内(昼)

紬はまばらな車内で立っている。

車内アナウンスが高田馬場を告げる。

紬、大樹を探す。だが、いない。

閉扉と共に脱力。

ドア横の仕切りに寄っかかる。

ゆっくりと車内表示を見る。

耳に手を当て、思い出したように鞆のポケットをま

さぐる。

紬の手が止まる。

ポケットを広げる。そこには紬のイヤホンと昨日の

動物チャームが入っている。

紬、チャームを握り、外を眺める。

電車の音、車内アナウンス、喋り声。すべての喧騒

が紬を置き去りにする。

12. 学校・教室(昼)

女子1がスマホを見て、

女子1「紬、明日からちゃんと来るってよ」

女子2「なになに。朝いけるようになったん」

女子1「さあ？ でも今日は休むって」

女子2「寝溜めでどうにかしようとしてんな」

女子1、2が笑い合う。

13. 新宿駅・ホーム(昼)

紬、自販機の下からイヤホンを取り出す。

人を避けながら、ホームの端に立つ。

昨晚ビニールシートで隠されていたあたりである。

ぼんやりと景色を見る。

ニュースの音声「昨日午後9時ごろ、新宿駅で、山手線外回りで人身事故が発生しました。20代男性が死亡。この影響で、山手線は外回り、渋谷〜池袋で約40分にわたり運転を見合わせました」

ファン、と警笛が鳴る。

風に煽られる、紬の髪。

おわり